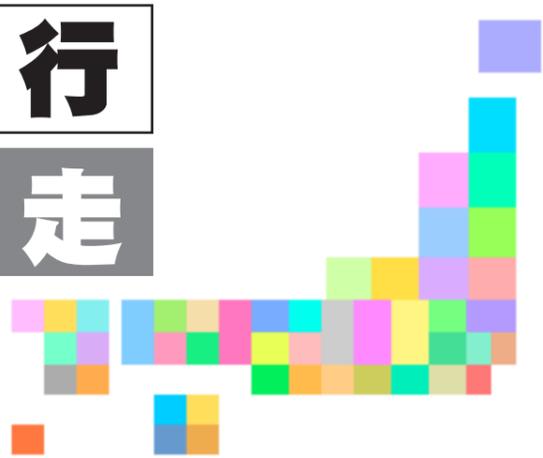


東行 西走



第3回 埼玉 県支部

このコーナーは都道府県ごとに各支会、支部の皆様にご協力を得て、いきいきと活動する地域の声を紹介します!(^^)!

【埼玉県支部の活性化】

「コンサルタント業」として 「自己研鑽の場」を縦横的に活用

とともに変化するのは当然なのかもと、また、同様に「知の伝承」も変化するものであっても良いのかも知れないと身をもって体感しました。しかし、一方、代々伝えられたはずの「知」とか「道」が、本当に「今」に正しく伝わっているであろうかと疑問視している「我」がいることも事実である。

「賢い者は自分が何を話しているか知っており、愚かな者は自分の知っていることを話す」今後とも宜しくお願い致します。

田所氏：JIMA や各支部で WEB サイトやその他の会合を質的に充実していただき、知の伝承の場の提供を心掛けていただきたい

川津氏：「知の伝承」とは、先輩会員が持つ暗黙知をいかに自分仕様の知識としていくことではないか



最近多いウィキペイド等のようなインターネット情報による「知の伝承」はあくまでマニュアル的な伝承であり形式知でしかない。それでは、マクドナルドのアルバイトと一緒に。これからの時代で重要なのは形式知を身に着けたうえで、他の会員との研修などによりその会員が持つ暗黙知をいかに自分仕様の知識としていかにあるかと思う。

川津文明氏(40代)
経営管理士、日本経営学会の会員、現役の新宿区勤務の公務員

それを身に着けるのには、自分の考えを直接発表し、それをベースに他の会員と議論をする必要がある。また、先輩会員が持つネットワークも重要だ。議論の中から必要な人脈を紹介され本人のネットワークが広まれば、コンサルタントとして確実に財産となるはずである。

花谷氏：新しい知識について良く考え、きちんと理解して、実践して、自分の知識として吸収すること

花谷嘉浩氏(40代)
外資系保険会社勤務、経営管理協会一般会員

早いもので支部会に参加させていただいて10年が経った。様々な分野で活躍されている諸先輩方との研修会はいつも本当に勉強になる。新しい知識に出会うことは喜びであり、人生を豊かにする。そして、いつも心がけていることは、新しい知識について良く考え、きちんと理解して、実践して、自分の知識として吸収することだ。

このたび私は「M&A スペシャリスト」資格試験に合格し、日本経営管理協会(JIMA)埼玉支部例会に初めて参加する機会をいただいた。支部会合でのお話を伺って、その経営コンサルティングに関するいくつかの活動内容と60年目となる歴史ある協会であることを知り、さらに協会に対し興味が増した。JIMAはある程度の仕事上の専門性や知識を参加条件としながら、いろんな分野の方々が参加されていて、参加者の多様性も確保されているのではないかと思います。それによって「知の伝承」という、これまでの経験に基づく先達のノウハウや観察と知識という暗黙知を引き出しそれを消化吸収し良い意味での形式知を多くしてゆく、という事ができる良い環境なのではないかと思う。JIMA や各支部で WEB サイトやその他の会合を質的に充実していただき、知の伝承の場の提供を心掛けてい



田所亮子氏(40代)
コンサルティング会社勤務、M&A スペシャリスト、経営管理協会一般会員

ただければと思う。また各会員がその積極的な参加によって自身のレベルアップと他者への好影響をめざすと良いと思う。少子高齢化社会を迎えた具体的な観点からは、男女限らず、生活者から出産・子育て・教育・介護に関して現状を聞く機会をもつと、社会の改善や新しいビジネスのヒントや情報が得られるのではないかと思います。今後とも宜しくお願いします。

★埼玉県支部プロフィール
開催場所：うらわ市内中心（うらわ市民会館、浦和コミュニティ会館、埼玉会館）
開催日時： 隔月中旬、水、木曜日、14時～16時半
埼玉県支部会員：16名（OB会員も含む）

Interview

「知の伝承」と「協会への期待」

埼玉県支部では平成26年度新入会員が3名入会致し、支部会員の年齢層にも幅ができました。今回は埼玉県支部の皆様にごコメントをいただき活発なご意見を伺うことができました。協会支部、本部の活動拠点としての活動のあるべき姿を年齢的に異なる数名の会員の皆様に、経営資源の「ヒト、モノ、カネ、情報」の中で、特に「人」「情報」が埼玉県地域の在住会員の経営支援活動を通じて密接に関係している実体をご紹介します。



水谷悦夫(60代)
協会理事、埼玉県支部長
外資系IT企業を定年退職して3年。現役時代から、経営管理に関心があり、現在、全能連認定コンサルタント(M-CMC)、経営管理士、事業再生スペシャリスト、ITILファンデーション、ITパスポート資格を取り活動中

水谷：支部活動への参加意欲の底辺には、「知の伝承」の場、「自己研鑽」の場としての期待が多分にあるかと思う。今回、これからの時代の経営コンサルタントや経営支援に携わっていくものにとって、「知の伝承」とはどうあるべきか、支部会員の皆様にコメントをいただいていた抱いているイメージや感想を伺った。また、今回は、その第一弾として支部活動の「集い」の中で、「協会に期待したいこと、求めていること」と思っている事なども合わせて語っていただいた。まずは、大先輩の山田先生に口火をきっていただきたいので、この「知の伝承」と「協会に期待したい」ことへのイメージ、または感想をいただいた。

山田氏：時代の変化の中で「知の伝承」にギャップはあって当然ではないか

思い起こせば当時、支部会員同士での「新聞発行による情報共有」の場とするなど盛んな支部活動時代もあったが遠い昔のことでもある。既に先立たれた会員もいるのでとても

寂しいのが現実である。OB会員である現在、過去にたくさん所属していた会合の機会からも遠のき、自宅書斎の整理などをして逆にならなくなったことから「ぼけ気味」の兆候が表れてしまったように思えた。そこで、ある時、久しぶりに、「書道の会」に出向いたのだが会の雰囲気も変わっていて中々なじめない我が身があった。伝統のある書道の「道」ですら「伝承」に変化のあることを微妙ではあるが感じ受けとめたのである。伝統技の「道」を極めてきた書道家としての自負心をもっているのであるが、時代



山田道彦氏(80代)
OB会員として、時々支部会合に参加。現役時代は企業のR&D部門で企業の経営ビジョン策定に参画。スポーツはラグビー、「師範」として書道を教える活動の傍ら、俳句、詩吟、水泳、酒の銘柄に興味を持ち、巨樹・巨木の会、その他多くの「会」にも参画

埼玉県支部 研鑽の場・共有化の場

「これから良くしていきたい企業」

株式会社志木サテライトオフィス・ビジネスセンター

代表取締役社長 柴田 郁夫



日本テレワーク学会顧問、NPO 法人東上まちづくりフォーラム理事長、
社団法人 日本テレワーク協会客員研究員

【著作】『コミュニティビジネス、SOHO でまちを元気にする方法』（ぎょうせい）
『PI』を理解すれば時代の面白さが見えてくる』（PHP 研究所）
『活生のまちをつくる～自由時間都市における人と地域』（ぎょうせい）

埼玉県のほぼ中央を縦断する東武東上線、その東武東上線を横に交差する武蔵野線との連絡駅に程近い志木市…この地に、当社はあります。株式会社 志木サテライトオフィス・ビジネスセンター、志木市で生まれ、25年の歴史を持つ企業です。SOHO 支援、テレワーク支援を目指して起業してから、一貫して地域に根差したビジネスに拘ってきました。起業したいのだがオフィスがない、テレワークを取り入れたいが、その環境がない…といったニーズに対し、志木市でご提供を始めて以来、多くの起業家の方々に喜んで頂きました。また、最近では『起業そのものを考えているのだが、何から始めたら良いのか…』という起業

家予備軍の方を対象に『起業セミナー』も始めています。こちら『起業後も、レンタルスペースなどのサービスを活用してスムーズな開業準備ができる』とご好評です。一方、企業 OB・OG あるいは主婦を対象に、ご自身の『強み』を活用いただける場を提供（関連団体である『NPO 法人 東上まちづくりフォーラム』主幹で活動）をしたり、専門性を高めて頂くための職業訓練・人材研修も行っています（訓練・研修後は、就業先の斡旋も実施）。東京への一極集中…確かに東京は便利です。しかし、地域には地域の良さがあります。また、潜在能力を持った人材が数多くいらっしゃることも事実です。そうした方々が、当社をき

かけに集い、学び、はばたく…そのようなお手伝いが、これからもできればと思います。もちろん当社の力だけでは限界があります。国、県、市、地域の企業、関連団体、そして何より当社に集う方々…こうしたすべてのお力をお借りし、これからも『地域』を、力強く発信していきます。



経営者と経営コンサルタントの二人三脚による活動の紹介

紹介者：荒蒔 良和

日本経営管理協会 埼玉県支部 M&A スペシャリスト
合同会社ポイントガード 代表社員

株式会社 志木サテライトオフィス・ビジネスセンター様（以下、『志木サテライト様』と称す）の特長を一言で表せば、①理論に基づいたビジネスの実践 ②地元（埼玉県志木市を中心とした東武東上線沿線）に根ざしたビジネス展開と言えるでしょうか。私が柴田社長に初めてお会いしたのは、ある補助金申請会場。柴田社長も私も、自身の事業に関する補助金申請をしようと指定会場に参集し、たまたま席を隣り合わせたのがご縁です。以来、志木サテライト様の企業価値向上に向けお手伝いさせていただき一方で、経営者の先輩としてご鞭撻いただいています。学究肌の柴田社長ですので、ビジネ

スにおいても、まず『理論』から入られます。このビジネスチャンスの背景を流れる『理論』とは何なのか、その『理論』に基づき、どのようにしたら最大の効果が得られるのか、物理の先生のように考えられます。「その後『理論』を考えるだけでは飽き足らなくなったこと。まさに、このことが『学者 柴田』と『事業家 柴田』との分水嶺になったのではないかと私はそう考えています。事実、志木サテライト様スタート時の事業である、①コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスコンサルティング②テレワークコンサルティングは柴田社長のご専門、『SOHO』および『テレワーク』での『理論』に

基づいています」その柴田社長が、この25年間、じっくりと根を下ろしてこられた志木市、そして東武東上線沿線…このエリアでビジネスを展開しておられる志木サテライト様の未来は、前途洋々たるものと確信しています。最近伺ったところでは、『介護事業』と『認知症緩和』を合わせたビジネスを準備されているとか。『埼玉県の雄』企業として、今後も成長が期待される志木サテライト様から目が離せません。



株式会社志木サテライトオフィス・ビジネスセンター

【本社所在地】 埼玉県志木市館2-5-2 鹿島ビル4階

【設立】 1988年（昭和63年）10月

【従業員数】 17名（役員4名、正社員4名、パート9名）

【関連会社】 NPO 法人東上まちづくりフォーラム

【主な事業内容】

- （1）シンクタンク事業（『テレワーク』及び『SOHO』に関する調査研究）
- （2）介護資格取得支援事業（公共職業訓練事業）
- （3）各種ビジネスサポート事業
- （4）特定人材派遣事業
- （5）輸入販売事業（イタリアの伝統的大麦焙煎飲料『オルゾ』）

協会の望まれるポジションとしての中活協とは

日本経営管理協会中小企業活性化支援協議会 水野隆行
株式会社HAL 代表取締役・経営管理士

日本経営管理協会中小企業活性化支援協議会は、発端は経営力強化支援法に基づく、経営革新等支援機関、認定支援機関の連携スキームとして誕生しました。歴史ある日本経営管理協会の一委員会として、本会の中の実働部隊として、埼玉支部が発祥の地となります。今回、一般社団法人日本経営管理協会も経営革新等支援機関として認定

され、東京支部、愛知支部等、順次発足し、これからが本格的始動となります。保有資格や、団体の枠を超えて、経営コンサルタント養成の実践の場として、将来的には本会同様各支部を設け活動していく所存です。埼玉支部、東京支部では、現在連携して金融機関、支援機関、公的機関、及び行政に向けて、メンバーが手分けして情報発信を活発に行っております。日本経営管理協会の埼玉県支部とは、密接な交流を持ちながらの活動を望んでいますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

